

WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート

(2025年10月)

■ 10月のパフォーマンス

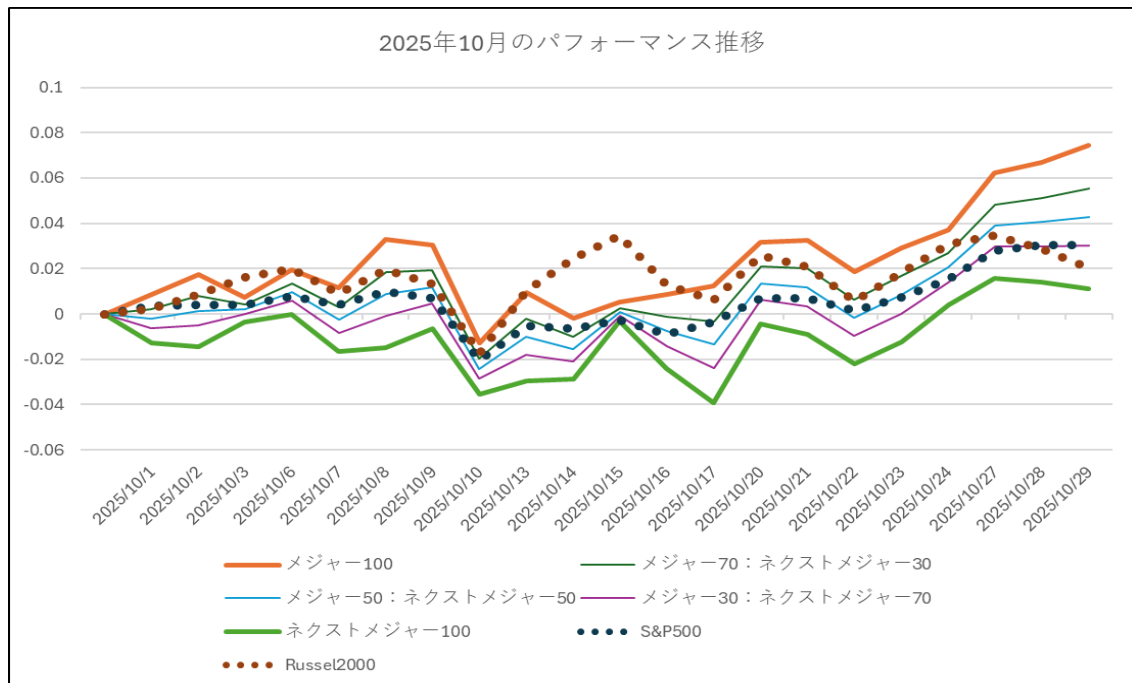
➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	+6.52%
ネクストメジャー100	+0.16%

➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	+2.27%
Russel2000	+1.76%
NASDAQ	+4.70%
NY ダウ	+2.51%

➤ 運用コース毎のパフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク (%)	超過収益
1位	メジャー100	6.52%	S&P500	2.27%	4.25%
2位	メジャー70：ネクストメジャー30	4.61%	S&P500 (70%) Russel2000 (30%)	2.12%	2.49%
3位	メジャー50：ネクストメジャー50	3.34%	S&P500 (50%) Russel2000 (50%)	2.02%	1.32%
4位	メジャー30：ネクストメジャー70	2.07%	S&P500 (30%) Russel2000 (70%)	1.92%	0.15%
5位	ネクストメジャー100	0.16%	Russel2000	1.76%	-1.60%
	全戦略平均	3.34%			1.32%

※各指標のベンチマークについて

メジャー100 のベンチマークは S&P500 、ネクストメジャー100 のベンチマークはRussel2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

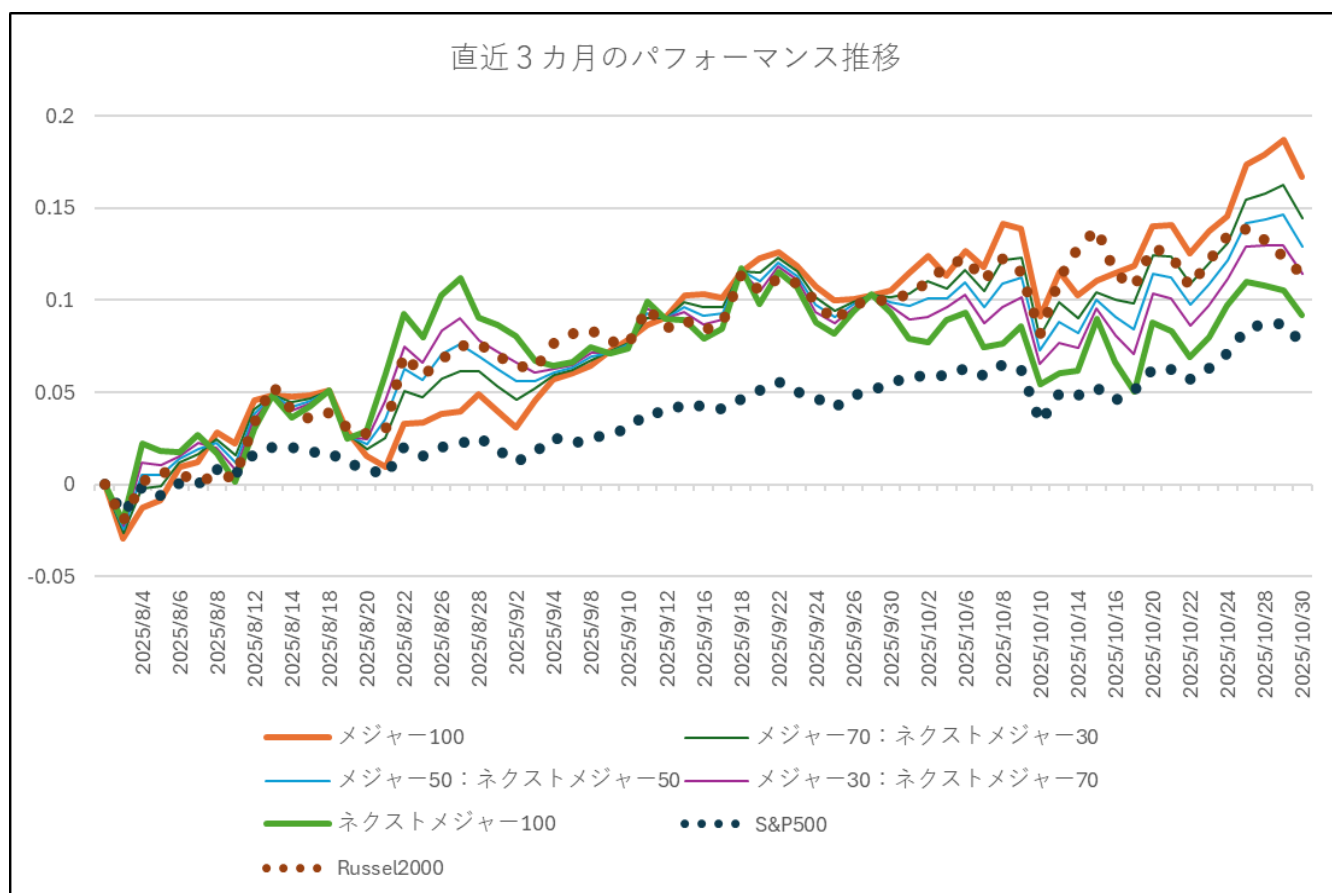
※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

Wealth Growth（ウェルスグロス）で最も月間成績が良かった戦略は、「メジャー100」でした。月間で+6.52%、対ベンチマーク超過収益では+4.25%となり、9月に続きベンチマークを大幅にアウトパフォーマンス！！

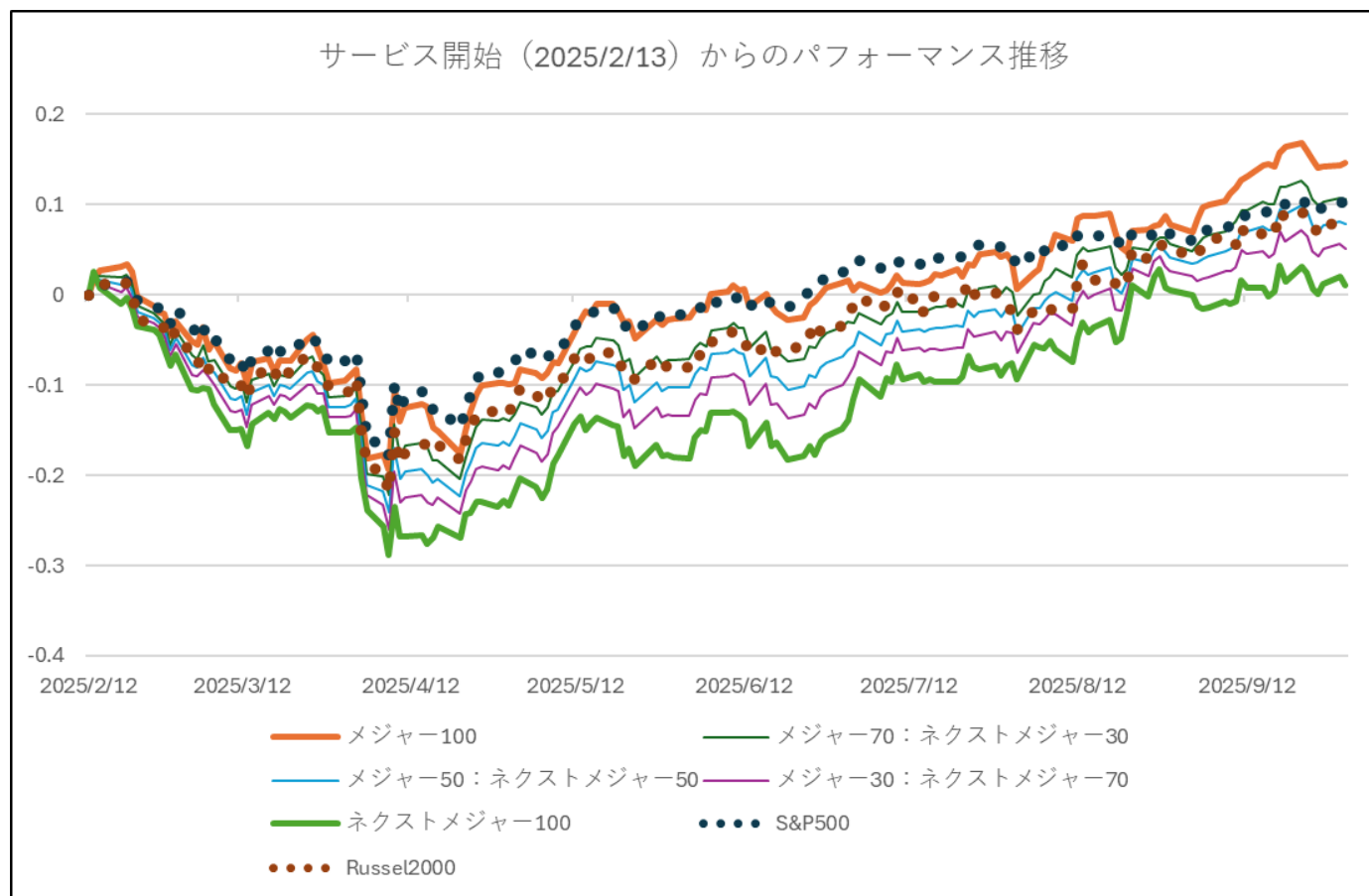
また、対ベンチマーク超過収益で最も月間成績が良かった戦略は、同様に「メジャー100」でした。

➤ 過去 3 カ月のパフォーマンス推移グラフ



➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth（ウェルスグロス）の2025年2月13日（サービス開始）から2025年10月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

➤ 設定来の騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来	シャープレシオ	ソルティノレシオ
メジャー100	6.52%	17.71%	35.60%	-	22.09%	1.98	4.06
ネクストメジャー100	0.16%	9.48%	32.12%	-	1.24%	0.84	1.33
S&P500	2.27%	7.90%	22.82%	-	13.02%	1.88	3.50
Russel2000	1.76%	12.04%	26.14%	-	9.92%	0.82	1.42

※騰落率は、サービスローンチの2025年2月13日からのデータを対象に算出しています

※シャープレシオ及びソルティノレシオは、実運用開始の2024年6月4日からのデータを対象に年率換算し算出しています。

■ 10月の市況概況

➤ 米国市場

10月の米国市場は、「AI投資の過熱と金融緩和への強い期待」を主要なテーマとし、史上最高値の更新を続けるリスクオンの展開となりました。しかし、連邦政府機関の一部閉鎖による重要経済指標の欠如や、トランプ政権による保護主義的関税政策の再燃リスクが市場の不確実性を高める要因として混在しました。

・第1週（9月29日～10月3日）／ダウ平均：+1.10% S&P 500：+1.09% NASDAQ：+1.32%

連邦政府機関の一部閉鎖が開始され、雇用統計などの発表が延期されましたが、市場は長期化しないとの楽観的な見方を示しました。ADP民間雇用者数が予想外の減少（-3.2万人）、ISM製造業景気指数が7ヶ月連続50割れと労働市場の減速を示唆するデータが発表され、FRBによる追加緩和観測が高まりました。S&P500とダウ平均は最高値を更新し4日続伸。セクター別ではAI事業への期待からハイテク株が牽引し、安全資産としての金先物は政府閉鎖懸念から連日最高値を更新しました。

・第2週（10月6日～10月10日）／ダウ平均：△2.73%、S&P 500：△2.43%、NASDAQ：△2.53%

ハイテク株が相場を牽引し、ナスダックとS&P 500は再び最高値を更新しました。特にAMDがOpenAIとAI半導体供給契約を締結し、AMD株が20%超の大幅高となったことが好感されました。9月FOMC議事要旨では、大半の参加者が年内のさらなる利下げが適切である可能性が高いと判断したことが判明し、利下げ観測が強まりました。しかし、週末にかけてトランプ大統領が中国製品への100%追加関税を表明し、地政学的リスクが意識される中、株式は大幅下落、金価格は史上最高値の4,000ドルを突破しました。

・第3週（10月13日～10月17日）／ダウ平均：+1.56%、S&P 500：+1.70%、ナスダック：+2.14%

週明けはトランプ氏の対中姿勢緩和発言で反発しましたが、その後、地方銀行2行の融資問題公表を機に信用不安が広がり、ダウは続落、金融株が急落しました。AMDがオラクルへもAI半導体供給を発表し、NVIDIAとの競争激化が意識される一方で、ブラックロックらによるデータセンター企業買収などAIインフラ投資への期待は継続。FRBのウォラー理事による0.25ポイント利下げ支持発言や、利下げ観測と地銀信用不安の高まりを受け、米10年債利回りは4月以来の4%割れとなりました。

・第4週（10月20日～10月24日）／ダウ平均：+2.20%、S&P 500：+1.92%、ナスダック：+2.31%

週前半は主力銘柄の決算不振（Netflixなど）と利益確定売りで調整しましたが、週末にかけて9月CPI（消費者物価指数）が市場予想を下回ったことで、年内あと2回の利下げ観測が広がり、10月のFOMCでの0.25%利下げはほぼ確実視され、市場心理は一気に改善しました。主力銘柄の好決算も追い風となり、主要3指数は揃って続伸し最高値を更新。米中閣僚級貿易協議の進展で貿易摩擦への警戒感は後退しましたが、OpenAIのブラウザー市場参入懸念からアルファベット株が下落する場面も見られました。

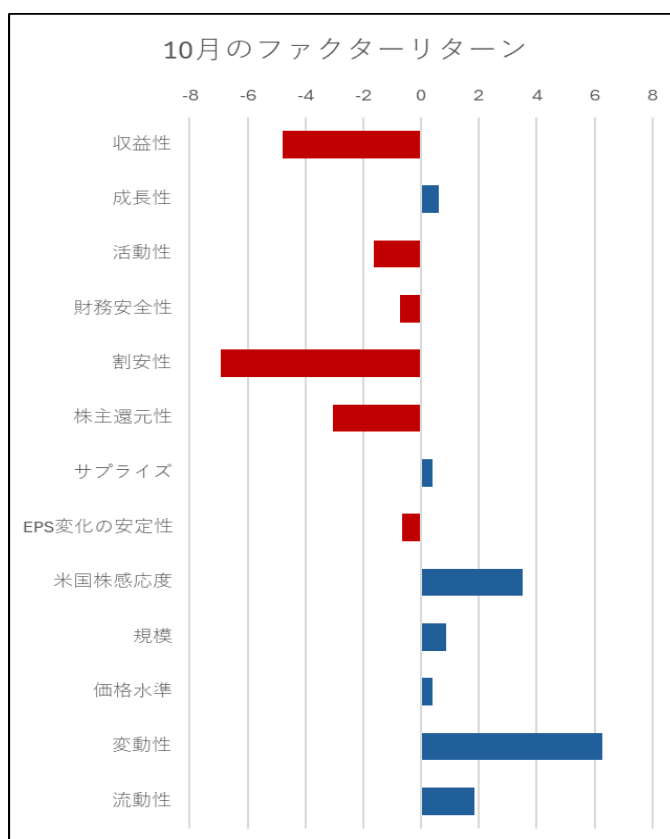
・第5週（10月27日～10月31日）／ダウ平均：+0.75%、S&P 500:+0.71%、ナスダック：+2.24%
 FOMC（連邦公開市場委員会）では予想通り2会合連続の0.25ポイント利下げと、量的引き締め（QT）の12月1日停止が決定され、金融緩和の方向性が明確化しました。米中首脳会談では関税引き下げとレアアース規制延期で一時停戦に合意し、市場に安心感が広がりました。AppleとAmazonの好決算に支えられ、NVIDIAの時価総額が5兆ドルを突破するなどAIラリーは継続。しかし、Metaは巨額設備投資への懸念から急落したことや、パウエル議長が12月利下げを牽制したこともあり、相場は不安定な値動きとなりました。政府閉鎖の長期化リスクは未だ解消されていません。

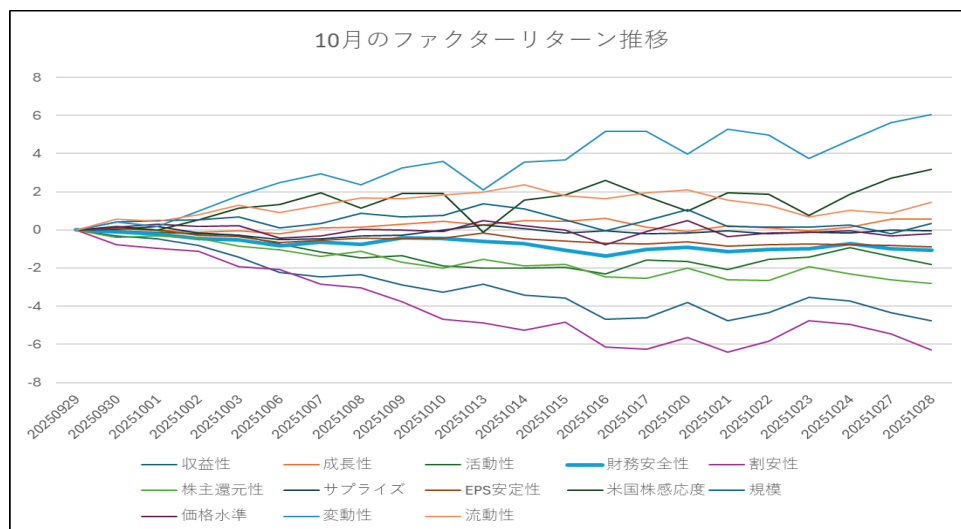
■ 月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

10月は、高流動ハイリスクの大型グロース株が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、変動性ファクター・米国株感応度ファクター・流動性ファクター・規模ファクター・成長性ファクターがプラスとなる一方、割安性ファクター・株主還元性ファクター・収益性ファクターが大きくマイナスとなり、9月に続きAI関連銘柄を中心とする指数連動性の高いハイリスクの大型グロース株へ資金が向かったことが見て取れます。



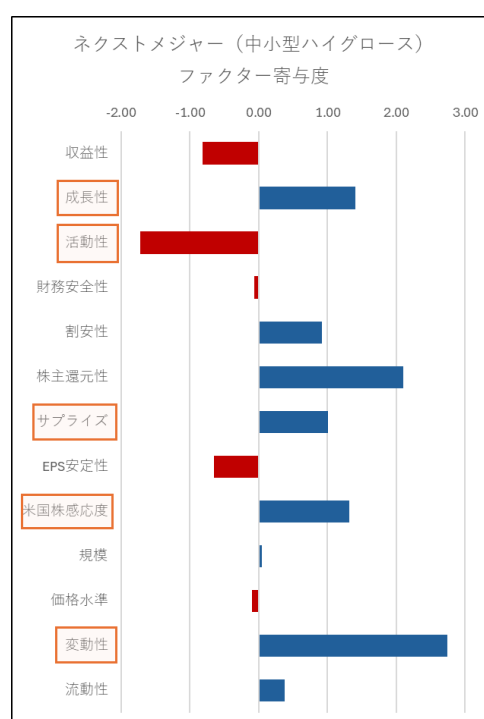
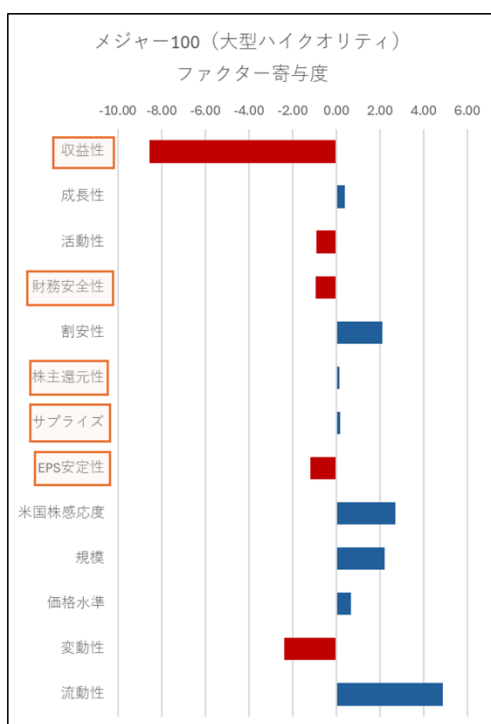


➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、Wealth Growth（ウェルスグロース）がご提供している5戦略は、全ての戦略がプラスとなり、4戦略がベンチマークをアウトパフォームする結果となりました。

メジャー100（大型ハイクオリティ）がS&P500をアウトパフォームした要因は、メジャー100の特徴であるハイクオリティ特性の高収益が大きくマイナスに寄与するも、大型及び高米国株感応度（＝ハイベータ）及び高流動特性が大きくプラスに寄与、さらに、グロース特性が強くなっていたこともプラスに寄与した要因でした。

ネクストメジャー100（中小型ハイグロース）がRussel2000をアンダーパフォームした要因は、ネクストメジャー100ポートフォリオの特徴であるハイ・グロース特性のなかの「好業績（＝ポジティブ・サプライズ）、高成長、高価格変動（＝ハイリスク）、高米国株感応度（＝ハイベータ）」といったグロース特性がプラスに寄与しものの、高活動・高収益・EPS安定といった特性が大きく足を引っ張ったことです。応度（＝ハイベータ）」が大きくプラスに寄与しものの、高活動性及び中小型特性が大きく足を引っ張ったことです。



➤ 個別銘柄寄与度

メジャー（大型ハイクオリティ）

寄与度上位5銘柄

No	Tiker	銘柄名	組入比率	寄与度
1	GOOGL	アルファベット	11.6%	1.65%
	アルファベット社は、ソフトウェア、ヘルスケア、運輸、その他のテクノロジーを手がける持ち株会社です。主に広告とGoogle Cloudの好調な業績に牽引され、収益と利益の両方で予想を上回る好決算を発表し力強い上昇を見せています。また、複数の地域におけるAIインフラへの積極的な戦略投資を支えに、成長著しいAI分野でのリーダーシップの地位を確保するという明確なコミットメントを示しており、長期的な成長に対する信頼をさらに強化しています。			
2	MU	マイクロン・テクノロジー	7.5%	1.59%
	マイクロン・テクノロジー社は、革新的なメモリおよびストレージソリューションを提供しています。AI専用メモリ製品の需要急増と人工知能の継続的なブームから恩恵を受ける強い立場にあります。また、AIデータセンター向けの最近の製品革新は、アナリストによる大幅な評価引き上げをもたらし、今後も堅調な成長軌道が予想されています。			
3	NVDA	エヌビディア	9.8%	0.79%
	エヌビディア社は、コンピューターグラフィックスプロセッサ、チップセット、および関連マルチメディアソフトウェアの設計と製造を手掛けています。同社は、クラウドプロバイダー（Microsoft、Nscale/VAST Data）や政府のAIイニシアチブ（Oracle）を含む様々なセクターで、GPUに関する大規模な契約を確保し続けています。計画されているGPU導入の膨大な量は、NVIDIA製品への堅調な需要を示しており、急成長するAI経済において同社が不可欠な地位を確立していることを示しています。			
4	PLTR	パランティア・テクノロジーズ	8.8%	0.73%
	パランティア・テクノロジーズ社は、集中管理型オペレーティングシステムとして機能するソフトウェアプラットフォームの構築と展開を事業としています。同社は、NVIDIAやSnowflakeとの重要な新規パートナーシップの構築や、新たな商業・防衛セクターへの拡大といったポジティブな進展があり、割高との評価もあるなか中長期的な成長が期待されています。			
5	AMD	アドバンスト・マイクロ・デバイセズ	1.5%	0.70%
	アドバンスト・マイクロ・デバイセズ社は、半導体事業を手掛けています。同社は、クライアント&ゲーミングおよびデータセンターの両セグメントにおける堅調な成長に牽引され、売上高が予想を上回る好決算を発表しています。これは、OpenAIやOracleとの主要なAIパートナーシップやAI市場におけるAMDの地位を取り巻く全体的な強気なセンチメントなどによるもので、今後も堅調な業績とAI関連需要の継続的なプラスの勢いにより高い成長が続くと期待されています。			

ネクストメジャー（中小型ハイグロース）

寄与度上位5銘柄

No	Tiker	銘柄名	組入比率	寄与度	
1	XERS	ゼリス・バイオフーマ・ホールディングス	11.0%	2.12%	
	ゼリス・バイオフーマ・ホールディングス社は、幅広い治療分野にわたる製品の開発と商業化に従事するバイオ医薬品会社です。主要な市販製品（Gvoke、Keveyis、Recorlev）からの安定した収益成長と、特に第3相試験を終えたXP- 8121における有望なパイプラインの進展により、堅調な事業運営力が期待されています。				
2	MVST	マイクロヴァスト・ホールディングス	3.4%	0.91%	
	マイクロヴァスト・ホールディングス社は、先進的なバッテリー技術企業です。同社は、記録的な収益、新製品の発表、そして多額の資本注入によって裏付けられるように、顕著な革新と堅調な業績を示しています。割高との評価はあるものの、基礎となる事業の見通しは引き続き堅調であり、今後も高い成長が期待されています。				
3	SLQT	セレクトクオート	7.6%	0.46%	
	セレクトクオート社は、保険契約およびヘルスケアサービスの提供を行う持ち株会社です。同社は、急成長するヘルスケアサービスプラットフォームを戦略的に位置付け、価値ある研究を行っており、今後の成長が期待されています。				
4	NRDS	ナードフレット	2.4%	0.20%	
	ナードフレット社は、個人向け金融に関する情報、知見、消費者目線のアドバイスを提供するオンラインツールの開発を手掛けています。同社は、「好調なEBITDA、効率的な事業拡大」と分析されており、アナリストから「トップ買い」と評価されています。また、株価は相対的にプラスリターンを続けており、同社への期待が投資家心理にも現れています。				
5	ZVRA	ゼブラ・セラピューティクス	2.3%	0.18%	
	ゼブラ・セラピューティクス社は、科学、データ、および患者のニーズを組み合わせ、治療選択肢が限られているか、あるいは全くない疾患に対する治療法を創出する希少疾患治療薬企業です。持続的な収益成長、高い機関投資家保有率といった好材料はあり、今後も成長が期待されています。				

■ Wealth Growth 戦略の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S&P500を凌駕するパフォーマンスを目指します

2. 戦略の特色

特色1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います

特色2：ニューヨーク証券取引所及びNASDAQに上場する約5,000銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します

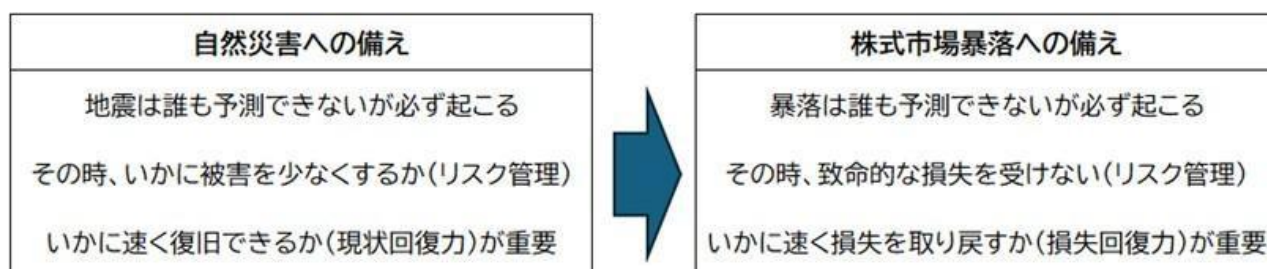
特色3：銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（＝高配当）」「高サプライズ（＝好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（＝高い総資本回転率）」「高サプライズ（＝好業績）」「高米国株感応度（＝ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色4：組入れ銘柄数は20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクはS&P500±10%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・Wealth Growth（ウェルス グロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていれば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン／年率換算下方リスク。

① 大型株（Major）

「高収益」×「EPS安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、

ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

② 中小型株 (Next Major)

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、

ハイ・グロス特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロス銘柄群に投資します。

4. ファクターの説明

Wealth Growth (ウェルス グロス) は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	活動性	総資本回転率、等
4	財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	サプライズ	経常利益修正率、等
8	EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9	米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10	規模	上場時価総額、等
11	価格水準	株価、等
12	騰落率	60日騰落率、等
13	変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14	流動性	売買代金20日平均、等

5. リスク管理

Wealth Growth (ウェルス グロス) は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています、
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています。
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています。

以上

※本レポートは、2025 年 11 月 5 日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Ｊトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Ｊトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Ｊトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要コストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】  Jトラストグローバル証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 加入協会／ 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会	【口座管理機関】  株式会社スマートプラス 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号 加入協会／ 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
--	---